



《第8回パネルの会 開催報告》

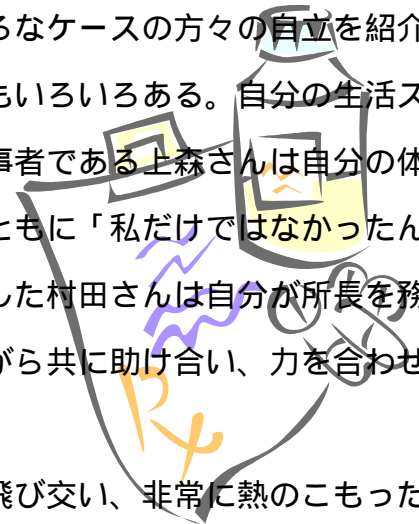
福島県内で心の病を治そうとしている人たちとそれを支える人たちが集まって、最新医学や精神科医療をみんなで勉強し発展させる目的のパネルの会。先日、9月2日(日)午後1時10分より、第8回パネルの会が、郡山市、南東北総合卸センター協同組合で開催されました。今年のパネルの会は、「第15回研修交流会、精神保健ばんだいのつどい」の第3分科会として開かれました。分科会としての開催にもかかわらず211名という多くの方が参加してくださり、パネルの会の存在が少しずつ大きくなってきていることを実感しました。

今年のテーマは「いろいろな『自立』を支援する薬」。パネリストは精神科医の國井泰人先生、当事者である上森一郎さん、そして支援者として活動している村田純子さんでした。パネリストの発表の前に座長である丹羽教授から、事前アンケートの結果報告がなされ、当事者の自立についてあらゆる立場の人たちの意見を紹介していました(次頁参照願います)。

パネリストの國井先生は薬を中心に話され、いろいろなケースの方々の自立を紹介しながら「自立の形にはいろいろあるが、妨げるものもいろいろある。自分の生活スタイルも選択すべき」と提言していました。また、当事者である上森さんは自分の体験談を話され、会場を訪れた多くの方々が共感するとともに「私だけではなかったんだ」と励まされた方も多かったようです。最後に発表した村田さんは自分が所長を務める施設の話をもとに、支援者として当事者を支えながら共に助け合い、力を合わせてお互いに向上していく姿を紹介していました。

参加者からも、自分の体験談や薬についての質問が飛び交い、非常に熱のこもったディスカッションとなりました。パネリストの発表に勇気付けられ、さまざまな立場の方が自分の胸の内をぶつけ合い、お互いが理解しあったディスカッションでした。

会の終了後アンケートでも、「当事者の上森さんの話に力づけられた」とか「薬の話は分かりやすくよかった」などの感想が多く聞かれました。





今回のパネルの会では、上森さんの「プラス思考で...」とのことばが非常に印象的でしたが、「自立」とは、医療や支援の面でもまた薬に関しても自分に合うものを自ら選び自分だけの人生ストーリーを作ることなのだと思います。会終了後、みなさんのすのすがしい後ろ姿を見て、パワーをもらった自分がそこにいました。

ご参加くださいました皆さま、ありがとうございました。又、来年も会いましょう。

